

『すれ違う』 作：ポチ子

今日外ですれ違った人は、

もう二度と会うことはない。

多分、喋ることもないし、

名前を知ることだって不可能だ。

マンションのベランダに干された洗濯物は、

確かにそこに誰かいると教えてくれるけど、

私はその人のことなんて知らずに生きる。

それでも別に困ることはない。

だから知りたいとも思わない。

私が生きていることを、

私は知っているけど、

世の中には、それを知らない人の方が多い。

あの洗濯物の主がいてもいなくても、

私の人生が変わらないように、

私の存在は、想像以上にどうでもいいものだ。

いてもいなくても変わらないのなら、

いなくても構わないような気がするけど、

今日すれ違った人が、今も普通に息をしてるように、

私も息をする。